

2020年4月2日

通院中の皆様へ 新型コロナウイルスについて

2020年4月1日に日本生殖医学会から全国の学会員に対して声明がでました。

抜粋（原本は日本生殖医学会のWebサイトをご覧ください）

国内でのCOVID-1（新型コロナウイルス）感染の急速な拡大の危険性がなくなるまで、あるいは妊娠時に使用できるCOVID-19 予防薬や治療薬が開発されるまでを目安として、不妊治療の延期を選択肢として患者さんに提示していただくよう推奨いたします。

また、既に調節卵巣刺激を開始し採卵を予定している患者さんについては、胚凍結の上で上記の状況を踏まえて胚移植時期を検討してください。胚移植を予定している患者さんについても同様の検討をおねがいたします。人工授精、体外受精・胚移植、生殖外科手術などの治療に関しては、延期が可能なものについては延期を考慮してください。

当院が加入するJISART（日本生殖医療標準化機関）の先生方と相談して、状況を慎重に配慮しつつ、下記のような方針で不妊治療を継続することにしました。

- 体調の悪い患者さんの治療は中止します（①37.5度以上の発熱、②せき・息切れ、③強いだるさ、その他の症状が認められる方）。
- 体外受精の排卵誘発を開始している方と採卵後の方は、原則的に良好胚を凍結保存してその周期には移植をお勧めしません（移植をご希望される方はご相談ください）。
- 一般不妊治療の方、凍結胚移植の方には、個々の方のご希望を伺い治療を進めるか、中止するかをご相談します。

厳しい状況が続きますが、晴れて妊娠できる日に向けて一緒に頑張りましょう。

日本人は優秀です。そんなに長くはならないと思います。

いしかわクリニック院長 石川元春